

第32回

うつのみやこども賞だより

平成27年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『占い屋敷の夏休み』

西村友里／著（金の星社）



～読んだ本の感想より～

- 占い屋敷にあずけられた真生は、いやがっていたけれど、ぼくは、ドキドキワクワクしておもしろいと思うだろう。
- 二人の兄弟とてる子さんなどに支えられて屋敷での夏休みをすごす真生に感動しました。
- てる子さんの思いがきちんと颯太に伝わっていてよかったと思いました。
- 屋しきのさまざまなしかけがおもしろかった。
- これから真生がお父さんとどのような生活をおくり、てる子さんと、真生のお父さんの関係がどうなるのかが気になります。
- 家族の大切さがとても分かった。

- 私も田川さんの料理を食べてみたいです。

『金色のキャベツ』 堀米薫／著（そうえん社）

- 風香のとまどいながらも、1人でどんどん行動できてしまう勇気がすごいと思った。仁ちゃんの畑でのいろんな人が団結した感じが心に残った。
- 仁ちゃんのキャベツ畑へ行ってせいちょうしたなあと思いました。私も金色のキャベツ畑をみてみたいです。
- 仁ちゃんたちが朝の三時に起きて、夕方まで働いて作ったキャベツを食べてみたいと思った。
- 風香のキャベツへの思いが仁ちゃんに会って農家のお手伝いをしてから大きく変わっていました。やはり人間は、経験をつんで一歩大人にちかづくんだなと感じました。

『ぼくのミラクルドラゴンばあちゃん』

さとうまきこ／著（小峰書店）

- 真一おじさんに会えてうれしかったけど、私だったら亡れいといっしょにいるかんじがして少しこわかったと思います。
- 馬に乗った星が原は現実だったのか夢だったのかがすごい気になりますが、航にとって良い思い出になったので、良いと思います。
- あきらめないことの大切さが分かったようなきがした。とてもユニークでおもしろい本だった。
- 私にもあんなおばあちゃんがいたら毎日楽しいだろうなと思いました。

『歴史探偵アン＆リック 里見家の宝をさがせ！』

小森香折／著（偕成社）

- 歴史の勉強をしながら宝をさがすところが、ミステリアスでおもしろかったです。
- 「杏珠、陸、杏珠、陸」と順番になっているので、どちら側の視点から見れるのでおもしろかった。
- たつみをこらしめる所がおもしろかった。ぼくもあの仲間にくわりたいなと思った。
- 家で保かんをせずに資料館にきふをしたのにもおどろきました。
- 子孫に今からでも何かやってあげられることはと考えた本でした。